

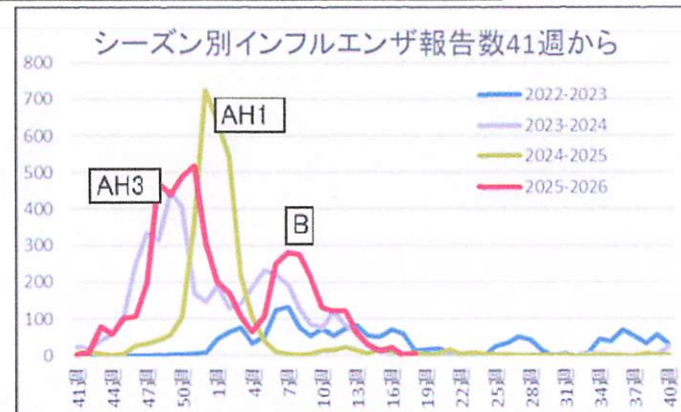
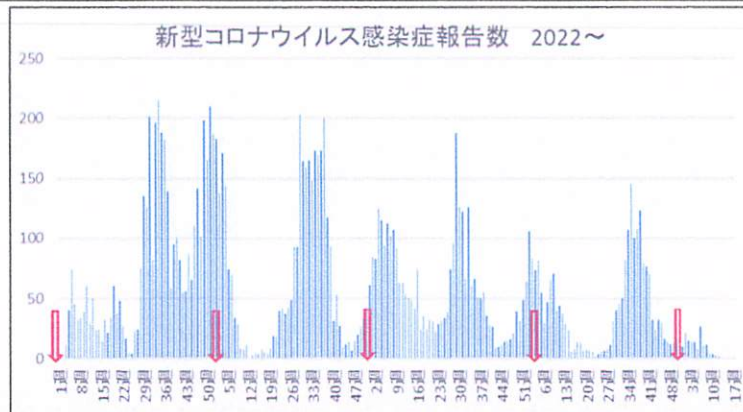
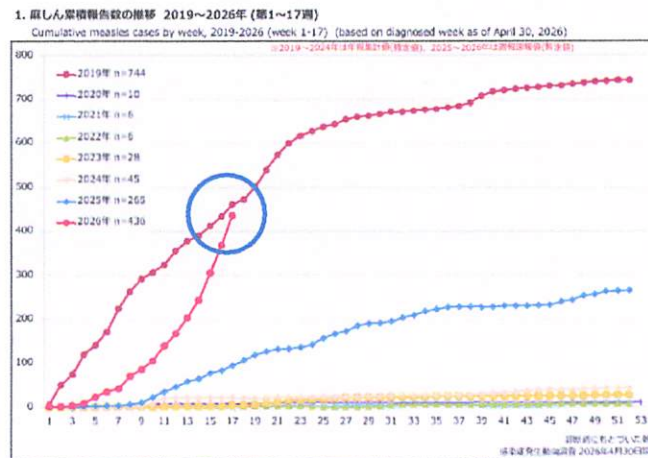
週間感染症情報

2026年17週～18週 2026年4月20日より2026年5月3日まで

17週 | 18週

麻疹		
風疹		
水痘(みずぼうそう)	2	
ムンプス(おたふくかぜ)		
百日咳	1	1
溶連菌感染症	8	10
手足口病		3
ヘルパンギーナ		
伝染性紅斑	1	2
感染性胃腸炎	55	56
ロタウイルス(再掲)	2	
ノロウイルス(再掲)		
便アデノウイルス(再掲)	1	
突発性発疹	1	
伝染性膿痂疹(とびひ)	1	2
ヘルペス性口内炎		
アデノウイルス感染症		
RSウイルス感染症	4	3
マイコプラズマ感染症	1	4
ヒトメタニューモウイルス		1
インフルエンザ	2	6
インフルエンザ A	0	0
インフルエンザ B	2	6
新型コロナウイルス感染症	2	4

2週間分の報告です。インフルエンザ(右下のグラフ)は、A型の後にB型の流行があり春休みに入り終息しました。新型コロナウイルスの報告は数例程度で、心配された冬の流行の山はありませんでした。しかし、発熱患者への対応は必要です。2025年8月以来の百日咳の報告がありました。市内小学2年生と岡山市の中学2年(14歳)でした。鑑別診断が必要です。右のグラフは麻疹の報告数の推移です。麻疹は感染力が強く、特別な治療法はありません。高熱が1週間続き、肺炎など合併症を起こし、現在でも1000人に一人は亡くなります。2025年より海外からの持ち込み例が増えました。2026年は17週までに436例と急増して、2019年の報告数を超える勢いです。多くは、ワクチン未接種や不明の症例です。**麻疹はワクチンで予防できる病気です。接種歴を確認しましょう。1歳と年長になったら、すぐにMRワクチンを接種しましょう。**2回の接種歴があれば、まずり患しません。自施設関係者のワクチン接種歴・抗体価を確認して、必要な場合はワクチン接種を勧めましょう。感染性胃腸炎は、数種類のウイルスが混在して流行しているようです。特別な治療はありません。水分摂取に努めてください。**熱がなくても咳をしている場合は、マスクの着用をお願いします。手洗い・換気に努めて下さい。**



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com>)